

Google for Education

教員と児童生徒のためのソリューション

1人1台 つながる授業を Google と


Google の目標は、教育と学びの変革に取り組む教育者をサポートすることです。

そのために、児童生徒一人ひとりに適した効果の高い教育 / 学習環境づくりに求められる時間、ツール、リソースを各学校が確保できるようにするためのプラットフォームを提供しています。

情報を理解して応用する方法は、個人やコミュニティ、そして世界を変える力があります。

学習は情報を有用なものにします。Google が学習のあらゆる取り組みに関わっているのはそのためです。

どんな人でも、どこにいても、そして目標が何であろうと、すべての児童生徒の学習成果を後押しする革新的かつ効果的な教育環境をつくる手段を教育者に提供すべく、既存のソリューションの改善と新たな機能の開発に取り組み、Google の教育 / 学習ツールに最新のテクノロジーを反映させ続けています。



「テクノロジーだけで
教育を改善できるわけではありませんが、
ソリューションとして
有効な手段の1つになりえます。」

スンダー ピチャイ
Google CEO

教員と児童生徒が活用するのに最適で、 共有可能な端末と共同編集ツール



Google が開発した学習向けパソコンで、軽量で耐久性が高く、ChromeOS で起動が速い。デスクトップ モードとタブレット モードの切り替えができ操作も簡単。安心安全なセキュリティで、管理、運用の手間を省けます。

Chrome Education Upgrade

Google 管理コンソール上から端末の管理や運用も簡単に行うことができる端末管理ライセンス。ログイン ユーザーの制限や、テスト中に別のアプリやブラウザを開けないように設定でき、紛失・盗難時には簡単に端末を無効化できます。



教員と児童生徒の双方向のコミュニケーションを実現する Google Classroom をはじめとした様々なアプリケーションを利用でき、授業における協働学習や校務の効率化を図ることが可能です。

Index

- 04 Chromebook
- 05 Chrome Education Upgrade
- 06 Google Workspace for Education
- 08 Google Classroom
- 09 お役立ち情報
- 10 Google for Education の導入サポート
- 12 Google のその他の教育ソリューション
- 14 Google for Education 導入自治体
- 15 Google for Education 導入事例

教育向けに設計され、授業向けに開発された 軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

Chromebook で 児童生徒主体の効果的な学びを促す

Chromebook は創造とコラボレーションに役立ち、シンプルかつ安全で、共有に適した端末として開発されました。使うアプリはすべてウェブベースなので、ソフトウェアは不要です。導入後も、拡張機能や自動更新、多層型セキュリティの機能により、Chromebook は常に改善され続けます。



数字で見る Chromebook

Chromebook は使いやすさ、セキュリティなど教育との親和性が高く評価されており、日本の教育機関でも採用が急速に伸びています。

教育用パソコンとしての世界の利用台数

5,000 万台

パソコンの管理に関わる時間

59% 削減*

*2020 IDC Whitepaper

他のパソコンと比べた 3 年間のトータルコスト

57% 削減*

*2019 IDC Whitepaper

日本の小中学校において Chromebook は 高い支持を獲得

小中学校 GIGA スクール構想における
Chromebook 端末
全国 1,741 自治体のうち

700 自治体採用^{※1}

全国端末調査における Chromebook 端末
3OS 評価において 21 項目中

14 項目高評価^{※2}

※1 Google 調べ 2020 年 12 月 1 日時点

※2 「GIGA スクール端末の選定における 3OS 評価と活用課題の調査」(MM 総研 2020 年)

Chromebook の特徴

起動が速く、バッテリーは長持ち

起動は 10 秒以内。長時間駆動バッテリーを備えているので、1 回の充電で終日利用できます。メモリ不足による速度低下は一切なく、操作は快適です。

最新のセキュリティ アップデートを 実装

バックグラウンド更新により 6 週間ごとに新しい機能とセキュリティがインストールされます。

多彩な形状、サイズ、価格

耐久性があり、予算に合わせて選べる幅広い価格帯も魅力です。サイズや形状も豊富にあるため、学校のニーズに適した端末を見つけられます。

どこにいても学べる

生徒はどのデバイスからでも各自のアプリや設定などにアクセスできます。共同プロジェクトによって生徒のデジタルスキルを高め、生徒の将来をサポートします。

児童生徒同士で端末を簡単に共有

Google アカウントにログインするだけで、個人の設定や拡張機能のすべてが自動的に適用されるので、共有パソコンとして最適です。

一元的な設定・管理

Chrome Education Upgrade の管理コンソールを使用すれば、1 台の端末から同じドメインのすべての端末を遠隔で管理、設定できます。

※詳細は 5 ページをご覧ください。

Chromebook のユーザー補助機能について

Chromebook にはすぐに使えるユーザー補助機能が含まれており、様々なニーズ、能力、学習スタイルの児童生徒に学習環境を提供します。機能の設定、使いやすいアプリや拡張機能によって、すべての児童生徒が集中して学習に取り組めるように学習環境のカスタマイズが可能です。

▶ 詳細はこちら: https://edu.google.com/intl/ALL_jp/why-google/accessibility/chromebooks-accessibility/



Chrome Education Upgrade

Chrome Education Upgrade で ChromeOS の機能を最大限に活用

端末管理にかかる時間を削減

Chrome Education Upgrade は、1つの端末から同じドメインのすべての端末を設定できる、管理コンソールです。何百台、何千台の Chromebook も、数回のクリックだけで簡単に管理できます。



Chrome Education Upgrade の特徴



アクセスは管理され、ユーザーによるアクセスの可否を IT 担当者が管理



導入がシンプルで、IT 担当者がデバイス ポリシーにアクセス



高度なセキュリティで、学校のデータは常に安全



追加料金なしで、IT 管理者を年中無休 24 時間サポート



Chromebook であれば、コストも低価格なうえ、セキュリティも万全なので、生徒も教師も安心して使うことができました。また "Chrome Education Upgrade" を使用すれば、教師の負担が軽減されるのも大きかったです。アップデートなど必要ありませんからね。

八千代松陰中学・高等学校 井上 勝 氏

Chrome Education Upgrade の主な機能

Chrome Education Upgrade の利用に、特別な知識は必要ありません。誰でも簡単に、学校に最適な機能と端末の設定ができます。



ユーザー設定

- ・アプリや拡張機能のプッシュ
- ・Chrome ウェブストアのカスタマイズ
- ・プロキシ経由でのルーティング
- ・ユーザー体験のカスタマイズ
- ・ハードウェアの有効化 / 無効化



端末設定

- ・サインインできる人の指定
- ・登録およびアクセス制御
- ・ドメインのオート コンプリート
- ・クラウド プリントの有効化
- ・キオスクアプリのプッシュアウト



公開セッション設定

- ・個人のサインインが不要
 - ・ポリシーの制御
 - ・自動ログアウト設定
- 図書館や保護者会など、共有パソコンが必要なときに便利です。



端末管理

- ・登録済み端末の追跡
- ・登録日、最終同期日の確認
- ・在庫管理と情報の一括更新

Google Workspace for Education のシンプルかつ柔軟で 安全なツールを使用して、教育環境の質を向上させましょう

一連の教育向けツールで、 学びの扉を開く

Google Workspace for Education は、教員による学習機会の創出、管理業務の効率化、児童生徒のクリティカルシンキングの育成を可能にします。教員や児童生徒同士がリアルタイムで共同編集できる各ツールは単独でも力を発揮しますが、組み合わせて使用すればさらに効果的です。



Google Workspace for Education ツール一覧

クラスを管理



Google Classroom

直接児童生徒と交流して課題や提出物が管理でき、児童生徒にわかりやすく指導ができる



Google フォーム

簡単にアンケートやテストを作成でき、集計結果はスプレッドシートにリアルタイム反映



アサインメント

Google Workspace のツールとともに使用して、課題の出題、分析、採点が簡単にできる



確実な管理

Google 管理コンソール

最高クラスの多層防御セキュリティにより、オンライン上の脅威から保護できる

最適な方法でのコミュニケーション



Gmail

メールの送受信や整理、連絡先の管理を行い、様々な学習スタイルに対応できる



Google Meet

学校や自宅から、どんな端末でも、簡単な操作だけでオンライン授業や会議に参加できる



Google グループ

メーリングリストを作成したり、クラス、チームなどのグループで議論できる

場所を問わず共同編集が可能



Google ドキュメント

オンラインで文書を作成、編集、共同編集し、ニーズや学習スタイルに合わせて活用できる



Google スプレッドシート

表計算だけでなく意見集約など多様な活用方法で、リアルタイムに複数人で編集ができる



Google スライド

授業での発表などでのプレゼンテーションを作成と編集、複数人で共同編集できる



Google ドライブ

ウェブ上のファイルのアップロード、編集、共有を行える。多様なファイル形式に対応



Google Jamboard

クラウドベースのホワイトボードで、アプリケーションでも利用でき、どこからでも参加できる



Google サイト

保護者に対するポータルサイトなど、簡単なウェブサイトを容易に作成できる

すべてのタスクを管理



Google Keep

多機能メモアプリで、アイデアやタスクを管理でき、他のユーザーとも共同作業ができる



Google カレンダー

授業や会議の予定を管理・公開でき、個人用のリマインダーを追加できる



Google ToDo リスト

業務のタスクを効率的にリストアップし、管理できる

Google Workspace for Education についての詳細は、Google for Education 公式サイトをご覧ください。

▶ 詳細はこちら: https://edu.google.com/intl/ALL_jp/workspace-for-education/editions/overview/



エディションの概要

各エディションの主要な機能を比較して、ご自身の機関に適したソリューションをご検討ください。

無償エディション*	有償エディション		
<p>Google Workspace for Education Fundamentals (旧称 G Suite for Education)</p> <p>コミュニケーションとコラボレーションを改善する無償のツールセットを活用して、学校コミュニティ内の連携を強化しましょう。</p>	<p>Google Workspace for Education Standard</p> <p>高度なセキュリティ機能、分析機能、管理機能で環境を強化し、進化し続けるオンライン上の脅威から保護します。</p>	<p>Teaching and Learning Upgrade</p> <p>高度なビデオ通信機能、授業と学習を充実させる機能、学問的誠実性を促すツールで教育効果を高めることができます。</p>	<p>Google Workspace for Education Plus (旧称 G Suite Enterprise for Education)</p> <p>高度なセキュリティ機能や分析機能、充実した教育、学習用ツールなどを組み込んだ包括的ソリューションで、学校の変革を推進しましょう。</p>
<p>次のような教育用の基本的ツールと機能が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ Google Classroom、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライド、Google フォームなどのコラボレーション ツール✓ Google Meet、Gmail、Google Chat などのコミュニケーション ツール✓ Gmail と Google ドライブのデータ損失防止 (DLP)✓ GDPR に準拠しながら使用できます	<p>Education Fundamentalsの全機能に加え、次の機能が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 脅威をプロアクティブに防止、検出、修正するセキュリティセンター✓ デバイスとアプリの高度な管理機能が監査を実施し、セキュリティとアプリのアクセスルールを管理します✓ Gmail と Google Classroom のログをエクスポートし、BigQuery で分析してインサイトを得ることができます	<p>Education Fundamentalsの全機能に加え、次の機能が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ Google Meet では、最大 250 人が参加できる会議や、ドメイン内の最大 10,000 人が視聴できるライブ ストリーミングを実施できます✓ インタラクティブな Q&A、アンケート、ブレイクアウト セッションなど、やり取りを活発にするための Google Meet のプレミアム機能✓ Google Classroom のアドオンでお気に入りのツールやコンテンツを直接統合✓ 無制限に利用できる独自性レポートと、過去の児童生徒の提出物が保存された非公開リポジトリとの照合機能	<p>Education Standard および Teaching and Learning Upgradeの全機能に加え、次の機能が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ Google Meet では、最大 500 人が参加できる会議や、ドメイン内の最大 10 万人が視聴できるライブ ストリーミングを実施できます✓ ドメイン向けに Cloud Search をカスタマイズして、情報の見つけやすさやアクセス性を向上できます✓ AppSheet を使用して、コーディングすることなくカスタムアプリを構築✓ 教育の専門家で構成されたチームが優先的に対応

* 利用資格を有する教育機関で無料でご利用いただけます

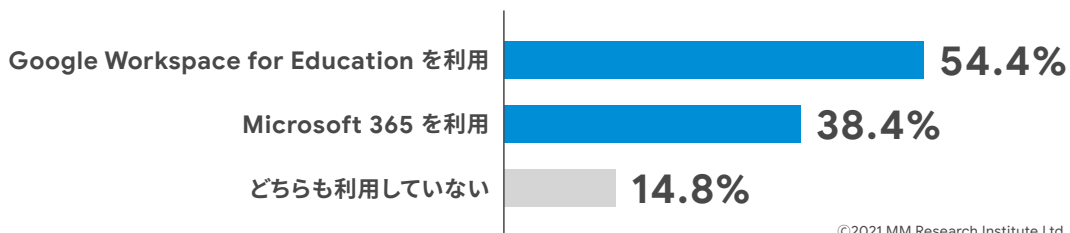
※ 2023/3 の情報です。



▶ 詳細はこちら: https://edu.google.co.jp/intl/ALL_jp/workspace-for-education/editions/overview/

GIGA スクール構想 | クラウド型教育プラットフォームの利用状況

調査に回答いただいた自治体 (n=1,490) の内、半数以上に Google Workspace for Education をご利用いただいております。 ※複数回答



©2021 MM Research Institute, Ltd.

Google Workspace for Education のユーザー補助機能について

ニーズや学習スタイルの異なる児童生徒に対して、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google フォーム、Google スライドなどの Google Workspace アプリで効果的な指導を行う方法をご紹介します。

▶ 詳細はこちら: https://edu.google.co.jp/intl/ALL_jp/workspace-for-education/editions/overview/



指導と学習を一元管理

より効果的かつ有意義で、 コラボレーションに基づく指導を

Google Classroom は Google Workspace for Education に含まれる、教育者の協力のもとに構築された、無料の学習プラットフォームです。クラスの作成、課題の出題と採点、フィードバックの提供などを 1 か所で行うことができ、教員と児童生徒のコミュニケーションの促進に役立ちます。



Google Classroom の特徴



すべてに 1 か所に対応可能

すべての学習ツールをまとめて、複数のクラスを一元的に管理することが可能。



簡単な操作

学校コミュニティの誰もが数分で Classroom を導入可能。



共同作業に適した設計

クラス全体で同時に同一のドキュメントで作業を進めることや、Google Meet を使って画面越しに対面してつながることが可能。



どこからでもアクセス可能

場所やデバイスを問わずに指導や学習を支援し、より高い柔軟性とモビリティを備えたクラスを実現。



ノートをスマホのカメラで撮って Google Classroom にアップさせることでノート提出に代えることにしてみました。職員室の机上が生徒のノートで埋め尽くされることもなくなりましたし、教師が行うノート評価も、生徒が行う自学自習も遅滞なく進められます。

埼玉県立越谷南高等学校 外国語科 高橋幸次郎 氏

ペーパーレスで課題を作成、家庭で学習、リアルタイムで確認。保護者とのコミュニケーションもサポート

Google Classroom により、教員と児童生徒は常に情報が整理され、生産性を向上できます。例えば、Google Classroom で課題を配布した後、個々の進捗状況、完了した人数をリアルタイムで確認して、児童生徒に成績やコメントを迅速に提供できます。クラスのトピックや課題は別のクラスにコピーできるので、作業が効率化され、時間の節約にもつながります。膨大な教材や資料は、Google Classroom の [授業] ページにまとめましょう。課題や読み物、ビデオを投稿して児童生徒に家庭学習を割り当て、授業の時間はディスカッションなどに充てる反転学習も実現できます。[メンバー] ページでは、保護者、児童生徒、副担任の管理が可能です。Google Classroom は教員、児童生徒だけでなく、保護者とのコミュニケーションもサポートします。



Google Classroom についての詳細は、Google for Education 公式サイトをご覧ください。

▶詳細はこちら：https://edu.google.com/intl/ALL_jp/workspace-for-education/classroom/



しっかりサポートで安心! 導入や活用に関するなるほど! なヒントや事例を紹介

こういうときはどうしたらいい? 他の学校はどうやっているの? そんな疑問の解消や、Chromebook 活用のヒントをまとめたお役立ち情報です。上手に使って、導入時や授業に活かしてみてください。



Google for Education 教育 DX パッケージ

教育現場での DX を推進するための
パッケージ ソリューションをご紹介します。

<https://goo.gl/dx-package>



Google Workspace for Education お申し込み方法のご案内

これから Google Workspace for Education を
お申し込みされる教育機関の皆様の為のガイド

<https://goo.gl/gws>



Google for Education GIGA School

学校の先生や IT 管理者、教育委員会や学校の
管理職の皆様役に役立つ情報を掲載しています。

<https://giga.withgoogle.com>



活用ライブラリ

学校の先生による活用アイデアを紹介しています。

<https://goo.gl/library>



Google for Education 導入事例

日本の学校の導入事例動画をまとめた
プレイリスト

<https://goo.gl/video-jp>



Google Classroom ビデオシリーズ

Google Classroom の活用方法をまとめた
プレイリスト

<https://goo.gl/classroom-jp>

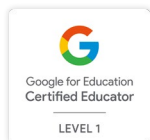


Google for Education の導入サポート

初めての ICT 導入も安心。教育者を支援する、 様々なサポート体制

教育者のサポートと専門的能力の育成

教育者の認定



教育者が Google のツールを効果的に活用できるようにするために、教育者向け認定資格コースを提供しています。また、こうした教育者のトレーニングや研修をサポートするための認定プログラムも用意しています。

オンライントレーニング



教育者向けに、授業に役立つ無料のオンライントレーニングを用意しています。Teacher Center では、Google ツールの初めての利用から上級者向けまで、目的とレベルに合わせてコースを選択できます。

▶詳細はこちら:

https://edu.google.com/intl/ALL_jp/teacher-center/training/?modal_active=none



トレーナーとのネットワーク



個人トレーナーや、専門能力開発プログラムを提供する認定パートナーのサポートを受けることができます。Google for Education のソリューション、導入サポート、IT サポートなどを提供しています。

Google 教育者グループ(GEG)



Google Educator Groups
Japan

テクノロジーの活用で充実した教育を実現するために、教育者同士の関係を築く場が設けられています。「学ぶ。共有する。影響し合う。能力を高める。」の 4 つが GEG のキーワード。日本各地の、教育者による、教育者のためのコミュニティ*の立ち上げを、Google は支援しています。

*各グループは地域のボランティア（GEG リーダー）によって管理され、企業としての Google からは完全に独立しています。

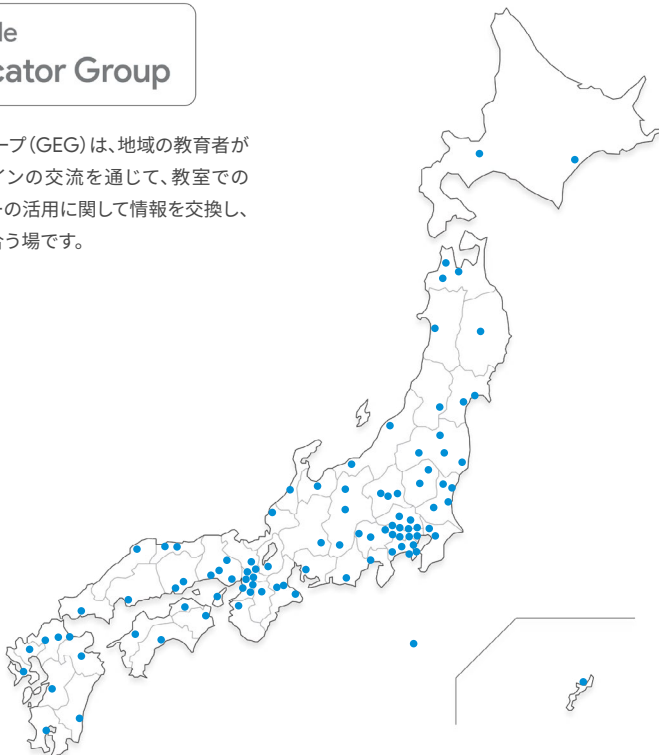
GEG についての詳細は、Google for Education 公式サイトをご覧ください。

▶詳細はこちら:

<https://teachercenter.withgoogle.com/communities>



Google 教育者グループ(GEG)は、地域の教育者がオンラインやオフラインの交流を通じて、教室での効果的なテクノロジーの活用に関して情報を交換し、協力し、互いに助け合う場です。



- ・北海道
- ・青森
- ・岩手
- ・宮城
- ・秋田
- ・山形
- ・福島
- ・茨城
- ・栃木
- ・群馬
- ・埼玉
- ・千葉
- ・東京
- ・神奈川
- ・新潟
- ・富山
- ・石川
- ・福井
- ・山梨
- ・長野
- ・岐阜
- ・静岡
- ・愛知
- ・三重
- ・滋賀
- ・京都
- ・大阪
- ・兵庫
- ・奈良
- ・和歌山
- ・鳥取
- ・島根
- ・岡山
- ・広島
- ・山口
- ・徳島
- ・香川
- ・愛媛
- ・高知
- ・福岡
- ・佐賀
- ・長崎
- ・熊本
- ・大分
- ・宮崎
- ・鹿児島
- ・沖縄

96 GEG (47 都道府県)

227 名のリーダー
(2023/3/31 時点)

Google for Education 認定パートナー

導入の検討から、現場のニーズに合わせた Google ツールのカスタマイズ、導入後の操作や活用方法の研修まで、Google for Education 認定パートナーがサポートします。

Google for Education のトレーニングとサポートについての詳細は、Google for Education 公式サイトをご覧ください。

▶詳細はこちら：https://edu.google.com/intl/ALL_jp/get-started/professional-development/



端末メーカー



ディストリビューター



リセラー



PD パートナー



Build パートナー



※順不同

Google Classroom と連携可能なアプリ / プラットフォーム

Google Classroom と連携したアプリ、プラットフォームのご紹介です。Google Classroom と連携することにより、児童生徒と教員の時間を有効に使用できるほか、Google Classroom とのシームレスな情報共有が可能です。

▶詳細はこちら：https://edu.google.com/intl/ALL_jp/products/classroom/apps/



Google のその他の教育ソリューション

Google の教育向けツールで 教育の可能性を広げる

Google Earth

世界を発見する、読み解く、そして表現する。

Google は、Google Earth をはじめとした授業づくりに役立つ地図関連サービスを提供しています。世界中のあらゆる場所を様々な視点から知ることだけでなく、身近なものから地球規模のものまで、事象や課題を読み解き、理解する力もサポートします。また、児童生徒はオリジナルの地図やストーリーを作成して、発見・理解した内容をオンラインで共有することができます。

Google の地図関連サービスを使って、児童生徒の主体性と創造力をより引き出す授業や活動を実践しませんか？

▶詳細はこちら:

<https://www.google.com/intl/ja/earth/education/japan/>



YouTube

YouTube を教育に取り込めば、 学びの可能性はもっと広がります

YouTube はエンターテインメントとしてのイメージが強いかもしれませんが、実は使い方によっては有効な教育 / 学習ツールにもなります。実際、YouTube の教育や学習に関するコンテンツは、世界で多数視聴されており、また、公教育の現場で YouTube が教育ツールとして活用されたり、教師が自ら授業動画を配信するといったことも増えてきています。

教育現場で YouTube を学習ツールとして活用するために知っていただきたいポイントを下記の資料でご紹介しております。ぜひご活用ください。

▶詳細はこちら:

https://services.google.com/fh/files/helpcenter/yt_for_schools_mar2021.pdf



YouTube

YouTube を学習ツールとして使ってみませんか？

今や YouTube は生徒の生活の一部です。英語の時間で授業のための調べ学習をする、生徒たちは動画を検索し、プレゼンテーションのための知識や方法学びます。生徒たちは YouTube を教材の一部としても利用できているのだと実感しています。
(私立中学校高等学校・国語科教員)

文字と写真が中心だった教材に「動画」が加わり、さらにいつでもどこでも見返せることで、生徒たちの学びの幅が広がりました。最近では、生徒達から「学べる動画」を紹介してもらえたりも。
(私立中学校高等学校・国語科教員)

はじめは YouTube が学びに使えるとは思いませんでした。授業の補足や授業に役立つのはもちろん、これまで一歩踏み込んだ生徒の発表を動画に変えると、伝え方に工夫が見られるようになりました。
(私立中学校高等学校・情報科教員)

YouTube を学校教育に取り込めば、学びの可能性はもっとひろがります

YouTube はエンターテインメントのイメージが強いかもしれませんが、実は使い方によっては有効な教育 / 学習ツールにもなります。実際、YouTube の教育や学習に関するコンテンツは、世界で多数視聴されており、また、公教育の現場で YouTube が教育ツールとして活用されたり、教師が自ら授業動画を配信するといったことも増えてきています。教育現場で YouTube を学習ツールとして活用するために知っていただきたいポイントをご紹介します。

新しいスキルを、すべての人に。

Grow with Google は、デジタルスキルの習得をサポートするための多様なニーズに応じたトレーニングやツールを提供する取り組みです。2019年に10のパートナーとともに始まり、現在では全国47都道府県、200を超える数多くの領域のパートナーと推進し、一人ひとりのさらなる可能性が開花するお手伝いをしてきました。2022年秋には、ついに受講者1,000万人を突破し、今後もキャリアアップにつながる資格の取得など、より実践的なプログラムもご用意してまいります。

▶詳細はこちら:

https://grow.google/intl/ALL_jp/



10,000,000

新しいスキルを、すべての人に。 Grow with Google

トレーニング コンテンツのご紹介

教育における ICT 活用

「Google Workspace for Education を活用した教員の働き方改革」

Google が提供する Google Workspace for Education の様々なアプリケーションを活用し、教員の皆様の働き方を効率化し生産性を上げる方法について、具体的な方法を学んでいきます。

「はじめての Google for Education」

Google for Education の概念、Google Workspace for Education で利用できるアプリケーションや、Chromebook の特徴について、はじめて Google for Education を使う方向けにいちから詳しく学びます。

「はじめての遠隔授業」

学校現場において遠隔授業がスムーズで取り組みやすいものとなるよう、Google が提供する教育現場でのコミュニケーションとコラボレーションに特化した統合ソリューション、Google Workspace for Education を活用した遠隔授業の取り組み方についてご紹介します。



コンピュータサイエンスを教える・学ぶ

▶詳細はこちら:<https://g.co/grow/education-cs>



Mind the Gap

女子中高生を対象にした、情報科学やコンピュータサイエンスについて楽しく学ぶ取り組みです。実際の製品開発を手がける Google の女性エンジニアによる講演を通して、女性からみた技術分野の仕事の魅力を知り、情報科学にまつわる仕事について学んでみませんか。

すべての先生のための CS First

CS First は、小学校中学年から中学生向けに設計された、使いやすい無料のコンピュータサイエンス、プログラミング教育向けのカリキュラムです。Scratch コーディングエディタ* の特別バージョンである、Scratch for CS First を使って、日本の学習指導要領とプログラミング教育の手引に沿ったカリキュラムで、学校内でのプログラミング教育を円滑に行えるように設計されています。

*CS First プロジェクトは、MIT メディアラボの Lifelong Kindergarten グループと共同で Scratch Foundation によって開発されたブロックベースのコーディングツールである Scratch を使用してプログラミングされます。Scratch の詳細については、scratch.mit.edu をご覧ください。



▶ユーザー登録はこちら:

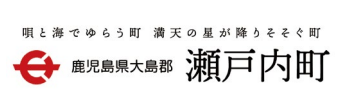
<https://g.co/csfirst/ja>



Google for Education 導入自治体

全国の教育現場で利用される Google for Education

Google for Education を導入された一部の自治体を掲載しています。



先生たちの声をピックアップしました



野田市立みずき小学校
佐瀬 奈津子 氏

従来は配付する歌詞カードを児童が手書きで作っていたところ、その準備が間に合わなかったときに自発的な取り組みが生まれました。ある児童が歌詞カードを Chromebook で作り、Google Classroom でクラスの友達に配付したのです。問題の解決に ICT を使ってみるという、まさに文具化した様子を見て取れました。この児童は ICT を使えば自ら発信できることがわかり、自信をつけて、学校で積極的に活躍しています。

ローマ字入力ができない子どもには、音声入力や手書き入力などそれぞれに合わせた方法を使って授業を円滑に進めています。子どもたちの学びを止めないよう、最適な入力方法を選べるのがとても魅力的です。時間が経っても学習履歴が残るので、個別のペースでの取り組みも実現できています。



泉佐野市立第三小学校
野間田 恭子 氏



姫路市立安室中学校
河部 秀喜 氏

生徒自身の発案による活用も進んでいます。Chromebook と Google Workspace は休み時間も自由に使えるようにしているのですが、パソコンが好きな生徒が Google スプレッドシートを使ってベルマークの点数を自動集計するシートを作成し、それが委員会の活動に広がったケースもあります。

授業を受動的に聞いているだけでは、集中できなくなってしまう生徒もいます。Chromebook を取り入れると、能動的に指を動かし、画面をタッチするため、自然と集中して授業に参加できるようになると感じています。従来の授業に苦手意識を持っていた生徒も、Chromebook を使う場面になると生き生きと操作していますね。疑問に思ったことや分からないことがあるとすぐに Chromebook を開いて調べようとする姿もありました。



鹿角市立十和田中学校
小松 裕太 氏



野田学園中学・高等学校
教務課長 岡藤 宏治 氏

Google フォームを利用した授業評価や振り返りのアンケート、Google Classroom を通じた授業資料やテストの模範解答の配信などでもよく使われています。啓発動画を見たあと生徒に意見を書き込んでもらい、それを全員で共有する使い方もしています。人前で意見をなかなか言えない生徒も、この方法なら発言しやすいようです。

事前に動画やスライドを見ながらシミュレーションをしたり、授業後に生徒同士でレポートを共同編集したりと、授業外での学びも活発になりました。情報共有が瞬時にできる点にも助けられています。黒板に書く時間が必要なくなった分、考察の時間にあてられる。コロナによる休校を経験し、学校でしかできない学びとは何かと考えたとき、Chromebook が大きな役割を果たしているのを実感しています。



岡山県立林野高等学校
瀬田 幸一郎 氏

※2022 年取材



世界中の学校や組織が、Google for Education のツールや端末を使用し、革新的な学習環境づくりに取り組んでいます。その活用方法や成果の事例をご覧ください。

Case 01



久留米市立荒木中学校

福岡県久留米市荒木町荒木 1918 - 1

<http://www.araki-jh.kurume.ed.jp/>



久留米市教育委員会

福岡県久留米市城南町 15 番地 3

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3070kyouikuiinkai/>

ICT を活かしたグローバル & 未来志向の教育を実施し 市の ICT 活用を牽引する久留米市立荒木中学校

2021 年に創立 75 周年を迎えた歴史ある久留米市立荒木中学校。同校は久留米市の ICT 推進校として Chromebook と Google Workspace を先行導入し、その事例とノウハウによって市内各校の ICT

活用を牽引する立場にあります。同校の校長と ICT 担当、及び GIGA スクール構想に対応するソリューションとして Google for Education を選定した久留米市教育委員会の担当者に話を伺いました。

Before

背景・課題

他校に先駆けて Chromebook と Google Workspace の活用を開始

久留米市では、市の小中学校全体で 1 人 1 台端末が始まる前年の 2020 年 10 月に、荒木中学校に 100 台の Chromebook と Google Workspace を先行導入しました。教育 ICT 推進課 指導主事の関和浩氏は Chromebook を選んだ理由について、「最大の理由は、学校現場、教育委員会の双方における運用管理の手軽さ

です。2 万 5,000 人の児童生徒に教員も加えた膨大なアカウントを管理するのは容易ではなく、効率的に管理できる仕組みが必要でした。加えて、教育でデータを活用するには徹底した情報セキュリティも大切です。Google のソリューションはその点でもアドバンテージがあると感じたのが、もう 1 つの大きな理由です」と話します。



指導主事
関和浩氏

Point

導入のポイント

「新たな教育の大きな 1 歩」、その取り組みを市内各校に発信

校長の古賀幸雄氏は教育委員会で決定する以前は Google のソリューションについてほとんど知りませんでした。ただ、実際にデモ機を手にとったとき、起動の速さに驚き、協働編集などの機能に触れ、「新たな教育の大きな 1 歩を感じた」といいます。同校の ICT 活用コーディネーターで、教務担当主幹教諭を務める松田靖生氏

も、当初は授業でどう使っていけばいいのか悩んだといいます。しかし、Google Workspace の多彩な機能を知り、「複数生徒での同時編集や共有機能をうまく使ってみよう」と期待感が生まれました」と振り返ります。先行導入では各教科の教員が積極的に試用し、市内各校の ICT 推進リーダーを招いた公開授業も実施しました。



校長
古賀 幸雄氏

After

導入効果・活用

協働学習・時間の有効活用など ICT 活用の効果を実感

松田氏は ICT 活用の効果について「導入当初は新型コロナウイルス感染症の影響で机をくっつけての班学習が難しかったため、Google Workspace のアプリケーションを使って生徒同士が近づかなくても班学習を進めることができることに特に有効性を感じました。また、紙で実施していた小テストは、

回収、採点・添削、返却のそれぞれに時間がかかっていましたが、Google フォームを利用することで時間を短縮でき、生徒はその時間を復習など有効に使っています。教員の手間や使用する紙の節約といった効果も出ています」と評価しています。



教務担当主幹教諭
松田 靖生氏

※2022 年取材



久留米市立荒木中学校

事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-kurume-araki-jhs.pdf>

地域の教育委員会が GIGA スクール構想の一環として Google for Education を採用し、児童生徒が Chromebook と Google Workspace for Education を活用している事例や、学校での検討から導入・利用後の様子などの事例を多数掲載しております。日本全国の導入事例はこちらからご覧いただけます。



<https://goo.gle/school-jp>

Case 02



富山大学教育学部附属特別支援学校

富山県富山市五艘 1300

<http://www.fzks.fuzoku.u-toyama.ac.jp/>



ICT 活用で障がいのある子どもたちの「個別最適な学び」を実現

富山大学教育学部附属特別支援学校は、小学部・中学部・高等部の 3 学部が設置され、計 58 人の児童生徒と、32 人の教員が所属しています。同校では障がい児教育を先駆的に研究する富山大学の方針を受

けて、2021 年度から Google for Education を採用し、1 人 1 人の個性や多様性、障がい特性などの実態に合わせた ICT の活用に取り組んでおり、Chromebook を全児童生徒に配布しています。

Before

背景・課題

大学の先駆的な障がい児教育研究を受け、ICT を積極活用

同校では、障がい児教育分野の研究が進む富山大学の主導により、以前から視覚的な支援ツールを活用する教育環境の整備に力を入れてきました。同校 中学部 情報主任の山崎智仁氏は、ICT が新たな支援ツールになることを期待していると話します。「障がいのある子どもたちは、聴くことより見ることが得意な場合も多く、目に見え

ないことを考えるのが苦手な傾向にあります。そうした部分を補うために ICT を使い、画面に手順を提示する、その日の活動内容を一覧で示す、活動の終わり時間を明示するといった支援を提供できます。同時に、子どもたち 1 人 1 人の多様な部分を支え育てる個別最適化のためにも、ICT は大切な役割を果たしてくれるでしょう。



中学部 情報主任
山崎 智仁 氏

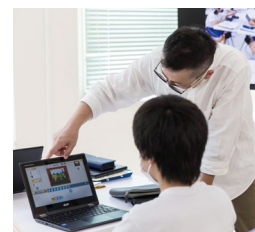
Point

導入のポイント

幼稚園・小学校・中学校との共同利用に適した Google for Education

同校では 2021 年 4 月に Google for Education を導入し、Chromebook を全児童生徒と教員に配布しました。Google for Education 導入は富山大学の発案により、附属幼稚園・小学校・中学校との共同利用に適したものとして採択されたとのこと。選定の理由について、山崎氏は次の

ように語ります。「Google Classroom による情報共有、Google ドキュメントや Google スライドを活用した情報教育の推進、Google ドライブや Chromebook のサンドボックスといった強固なセキュリティ面を重視し、総合的に選ばれたのではないかと考えています。」



After

導入効果・活用

授業だけでなく、さまざまなシーンで利活用が進む

高等部で情報を担当する紺恵氏は、「言葉の意味を理解し、書くことに興味をもてるように、教師からのコメントに画像や顔文字を入れたことで、出来事や気持ちを表す顔文字や絵文字を自分で探し、生活記録を書く生徒がいました。文字を入力するだけでなく文字の色を毎回変える生徒や、教師からの

コメントへの返事を交えて書く姿も見られました。Google ドキュメントの共働編集によってコミュニケーションの幅が広がり、楽しい、難しい、苦手など、言葉で表せる思いが広がった生徒がいたことも大きな成果です」と語りました。



高等部 教諭(情報担当)
紺 恵 氏

※2022 年取材



富山大学教育学部附属特別支援学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-fuzoku.u-toyama.pdf>



開智未来中学・高等学校

埼玉県加須市麦倉 1238

<https://www.kaichimirai.ed.jp/>



Google Workspace for Education Plus を用いた 安心・便利な ICT 活用と学びの場

2011 年の開校当初から教育への ICT 活用を積極的に進めてきた開智未来中学・高等学校では、Google Workspace を導入し、全生徒への端末配布も実施。2021 年に無償版エディションか

ら有償版の Google Workspace for Education Plus(以下、Education Plus)に切り替え、生徒・教職員・保護者が安全かつ便利に利用できる共有環境の構築に取り組んでいます。

Before

背景・課題

早期から ICT 環境を整備し学びへの活用を推進

開智未来中学・高等学校では、開校当初から ICT 活用に積極的に取り組み、デジタル リテラシーの強化に力を入れています。2017 年から全生徒への端末配布を実施し、2022 年 7 月に行った「学習用端末に関する調査」では、端末がすでに日常的な道具として浸透していることがわかる結果となりました。2022 年 3

月まで 2 代目校長を 4 年間務めた現理事長補佐の加藤友信氏は、開校当時から ICT 導入を一任され、現在も学校法人開智学園全体の ICT 管理・推進役を担っています。そして同氏のもと、2021 年 11 月に Education Plus が導入されました。教員に対しては、2022 年 3 月から Chromebook も配布しています。



理事長補佐
加藤 友信 氏
(前開智未来中学・高等学校校長)

Point

導入のポイント

個人認証によるアクセス制御でセキュリティのさらなる強化に臨む

同校に赴任する以前は県立高校で教員を務めていた加藤氏が、当時から最も重視していたのが、個人認証です。その頃、端末を誰が使ったのか管理できず問題になっていたため、1 人に 1 つの認証を与える取り組みを先駆的に始めたといえます。Education Plus に着目したのも、個人認証によるアクセス制御を強化するという方針に

フィットするのが大きな理由でした。同校ではここ数年、クラウドの本格活用をスタート。基本的にはオンプレミスで構築してきた仕組みをクラウド上へそのまま移行するイメージで、セキュリティを確保しながら生徒も教員も便利に使えるようにするため、Education Plus 導入は最適な選択であったと加藤氏は振り返ります。



After

導入効果・活用

生徒・教員・保護者の間で Google ソリューションの利活用が進展

テナントの構成は、アクセス権をいかに設定・制御するかを中心に考えて設計しました。教職員共有、教材配布、生徒共有という 3 つのドライブを設置し、それぞれのアクセス権を細かく定めています。加えて、途中から保護者にもサブドメイン アカウントを付与し、保護者向け共有ドライブも設定しました。教頭補佐で

ICT 推進部長の役割も担う新居良太氏は、「イベントの画像や動画を安全かつ迅速に共有できるようになった点や、人数制限して実施した体育祭の来場募集を Google フォームを通じて保護者アカウントに送り、人数把握が簡単に行えた点などでは、保護者にサブドメインを付与した効果も感じています」と話します。



教頭補佐 兼 ICT 推進部長
新居 良太 氏

※2022 年取材



開智未来中学・高等学校 事例資料はこちらからダウンロード

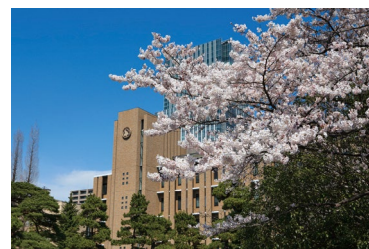
<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-kaichimirai.pdf>



東北大学

東北大学

仙台市青葉区片平二丁目 1-1

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>


提供: 東北大学

Chromebook と Google Workspace の活用で 全学 DX を推進する東北大学の取り組みに注目

国立大学初の CDO (最高デジタル責任者) を創設し、さまざまな事務のオンライン化に着手するなど、デジタルによる変革に先進的に取り組む東北大学。同大学では職員用端末を

Chromebook に置き換え、Google Workspace も導入して、全学を挙げた業務改革に取り組んでいます。他大学に先駆けてデジタル化・クラウド化を推進する東北大学の DX に迫ります。

Before

背景・課題

業務改革をスタート地点として、教育研究と大学の価値向上を目指す

東北大学では、学内のさまざまな業務をデジタル化・クラウド化し、どこでも仕事ができる環境づくりを推進しています。情報部 デジタル変革推進課 特命課長の藤本一之氏は次のように解説します。「やはり大きいのは、東日本大震災の経験です。地震で電気が止まると、サーバーやその上で動く業務システムも稼働せず、できることが大きく制限されてしまいます。BCP の観点で今後に備え

るためにも、2011 年に DX の検討を開始し、デジタル化・クラウド化を進めてきました」。2020 年 7 月には、CDO を国立大学で初めて創設。同時に職員約 60 人で構成される DX 推進プロジェクト・チームも発足しました。職員にとって働きやすい職場をつくり、教員が力を発揮できる環境を育むことで、世界最高水準の教育研究の実現につなげていくのが東北大学の DX の目指すところです。



情報部 デジタル変革推進課
特命課長
藤本 一之 氏

Point

導入のポイント

全学の業務基盤の端末として Chromebook を大量導入

東北大学の DX において大きな役割を果たしているのが、Chromebook と Google Workspace です。まずは 2019 年、クラウドの業務基盤として G Suite for Education (旧称) を全学で導入。2021 年 8 月には全事務職員の業務用端末を Chromebook に更新しました。その数は約 1,200 台に上ります。同課業務推進係長の川上翔氏は、「コロナ禍とオンライン

事務化に伴い Web 会議やテレワークのニーズが出てきたため、カメラとマイクが標準で搭載されている Chromebook に大きな優位性が生まれたことに加え、端末を紛失あるいは盗難された際もローカルにデータが残らないセキュリティの高さ、そしてコストの低さを考慮し、Chromebook を選定しました」と話します。



情報部 デジタル変革推進課
業務推進係 係長
川上 翔 氏

After

導入効果・活用

業務改革の目に見える成果に、他大学からも高い評価を得る

これまでの定量的な成果としては、Google のソリューションを活用して学内照会フォームを抜本的に見直し、2 万 6,000 時間分の業務削減効果があったと藤本氏。Google フォームや Google スプレッドシートはさまざまな部署の業務に適用されているため、すべてを洗い出せば削減時間はさらに大きくなり、ペーパーレス

化の効果も相当に出ているのではないかと手応えを感じています。こうした成果は、大学 ICT 推進協議会 (AXIES) の 2021 年度年次大会をはじめさまざまな会議等で発表され、DX の先進例として他大学からも高い評価を得ています。



※2022 年取材



東北大学 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-tohoku-univ.pdf>

Google for Education

教員と児童生徒のためのソリューション

制作

2023年5月

編集・発行

Google for Education

WEB サイトはこちら

<https://edu.google.co.jp/>



お問い合わせ

Google for Education お問い合わせ事務局



0120-905-860



gfe-jp-isr@google.com

【受付時間】9:00~18:00 月曜日~金曜日(祝祭日、年末年始除く)

Google for Education 公式サイト お問い合わせフォーム

https://edu.google.com/intl/ALL_jp/contact/

Google for Education 公式サイト

<https://edu.google.co.jp>